

いつまでも安心して住み続けたい！



こんにちは

岸本のり子です

08年6月22日

発行 日本共産党
連絡先 大津湖西地区委員会
岸本のり子
大津市和邇春田2丁目
ケイタイ08031163877

47 日本共産党

岸本のり子市議・一般質問 堅田 仰木編

堅田駅西口の開発は必要でしょうか？

雄琴駅周辺の土地区画整理事業の赤字は30億円。結局一般会計から補てきをするようになった。

岸本市議は、それでもなお堅田駅西口の開発をすすめるようする市の姿勢を糾しました。

マンモス校解消を最優先に！

今までも堅田小学校のマンモス化は解消されていません。

その上、西口の開発される敷地は個別の分譲住宅で3000戸分。

マンモス校でも建設されればさらに深刻になるのは明らかです。

これでは堅田学区の子どもたちに安心な教育が保障されません。堅田小学校の分離増設について検討しているのかの質問に

市は、現在1061人でピーク時の平成17年度の1219人より158人少ない。今後も減少傾向にあるのだからいいない。とこの答弁。

ピーク時の生徒数と比較するとはいいなくてもない。まず、マンモス校解消のため、学校建設を最優先に考えるべきではないでしょうか。

市街化区域で宅地並み課税！ 農業が続けられる施策を

今後宅地として売られるものの、農業を続けていこうと農地にかかる税の負担は重く農業経営が成り立ちませぬ。

岸本市議は例えば、生産緑地として指定するなごして、町農を希望する農業者に支援を訴えましたが、市は緑が残るようになって指定の必要ないといつ答弁なのでは。

生産緑地とは

都市計画法に基づき、良好な都市環境を確保するため、農林漁業と調整を図りつつ、都市部に残存する農地の計画的な保全を図ることを目的としている。

都市生活から緑を守り、食料生産の場所を確保しようというもの。農業を続けたい人のために、税制上の優遇措置が設けられている。

地域の声、無視して急ぐべきでない 動物保護管理センター

中核市移行に伴い、保健所業務の一つとして設置される動物保護管理施設。おもに犬を保護

住民に十分な説明のないまま、仰木の里北部衛生プラント空き地でスタートさせようとしたことから、建設反対の署名が5000人も集められ、市長に手渡されました。自治連合会などへの説明をしたことで、住民に合意が得られたとすすめたことが混乱の原因でした。

市は2月議会での6月までに設置場所を再検討し、あらためて決める」と答弁。

ところが、今議会でも、仰木の里に再選定。住民の思いが全く考慮されていないと岸本市議は市に迫りました。

市は、反対する人たちにも23回説明会を開いた。仰木の自治会や、自治連合会からは特に意見も来さない。とまたまた連合会などに地元同意の責任を転嫁するのでは。

財政難といいながら1億3千万円も かけて急ぐ必要があるのでしょうか

岸本市議はすでに中核市に移行している自治体でも、抑留や処分を県に委託しているところを紹介。市が今回の建設の選定基準に示す、「スト減」をいっなら、滋賀県の施設が老朽化しているわけではなく、10年、県の犬の収容頭数は県全体で半減以下であり、県に委託するよりも考慮すべきところを検討を求めました。